

【ミツバアケビ】



図 1. 全体像



図 2. 雌花



図 3. 雄花



図 4. 掌状複葉
(3枚)(鋸歯あり)

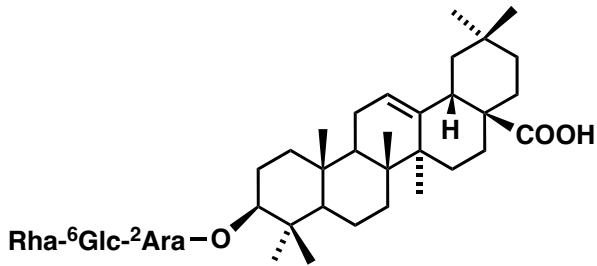


図 5. Akeboside Ste



図 6. 薬用部位 (茎) (東京理科大学植物園 2023/04/10)

和名：ミツバアケビ

学名：*Akebia trifoliata* (THUNB.) KOIDZ.

科名：アケビ科

属名：アケビ属

産地と分布：日本各地および中国に分布する。

同属のアケビ (*A. quinata* DECNE.) は人里近い低山によく見られるが、本種はより標高の高い山地や寒冷地に自生することが多い。

生薬：木通 (モクツウ) (日本薬局方収載)

基原→アケビ *A. quinata*、またはミツバアケビ *A. trifoliata*

薬用部→つる性の茎

薬効→利尿、消炎、清熱、通経

成分→サポニン (アケボシド類)

薬能→利尿滲湿

漢方薬→消風散、当帰四逆加呉茱萸生姜湯など

確認試験→起泡試験

備考→ミツバアケビの果実を預知子 (ヨチシ) として用いることもある。

- ・ ミツバアケビは、落葉のつる性低木であり、茎には明らかな皮目がある。同属のアケビは、鋸歯のない小葉 5 枚からなる掌状複葉であるが、本種は粗い鋸歯をもつ三出複葉となっている。花期は 4~5 月で、雌雄同株。葉腋から総状花序が斜めに垂れ下がり、濃紫色の花をつける。果実は大型の液果で、10 月に熟す。成分としては、木部と根にサポニン (アケボシド類) を含む。
- ・ 中国では以前、関木通 (ウマノスズクサ科：*Aristolochia manshuriensis*) を木通 (アケビ科：アケビまたは

ミツバアケビ)として使っていたが、関木通の基原となるウマノスズクサ科に特徴的なアリストロキア酸という腎毒性を有する化合物による被害が出たことがある。

- ・ 主に日本に自生しているゴヨウ（五葉）アケビは、ミツバ（三葉）アケビの自然交配によって誕生した種類と推定されている。
- ・ アケビの仲間は、果実が熟したときに、割れて中の果肉が見えるようになる姿を、「開け実」と呼んでいたことが名前の由来とされている。

【参考文献】

熊本大学薬学部 薬草園 <https://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/yakusodb/detail/003434.php>

生薬学 授業プリント、薬用植物学 改訂第7版 水野瑞夫 南江堂

2023/05/29 4YM Y.Y